

国際商品市況（ 7/18～8/21 ）

原油・銅・鉄鋼原料・穀物

原油は情勢長期化で需給ひっ迫懸念

2026年 8月 25日

原油（情勢長期化で需給ひっ迫懸念）	2
上席主任研究員 李 雪連	
銅（供給不安を背景に上昇）	2
上席主任研究員 宮森 映理子	
鉄鋼原料（流動的な需給環境で一進一退）	3
上席主任研究員 栞名 奈美	
穀物（天候リスクや中国需要を背景に上昇）	3
主任研究員 浦野 愛理	

原油

上席主任研究員 李 雪連

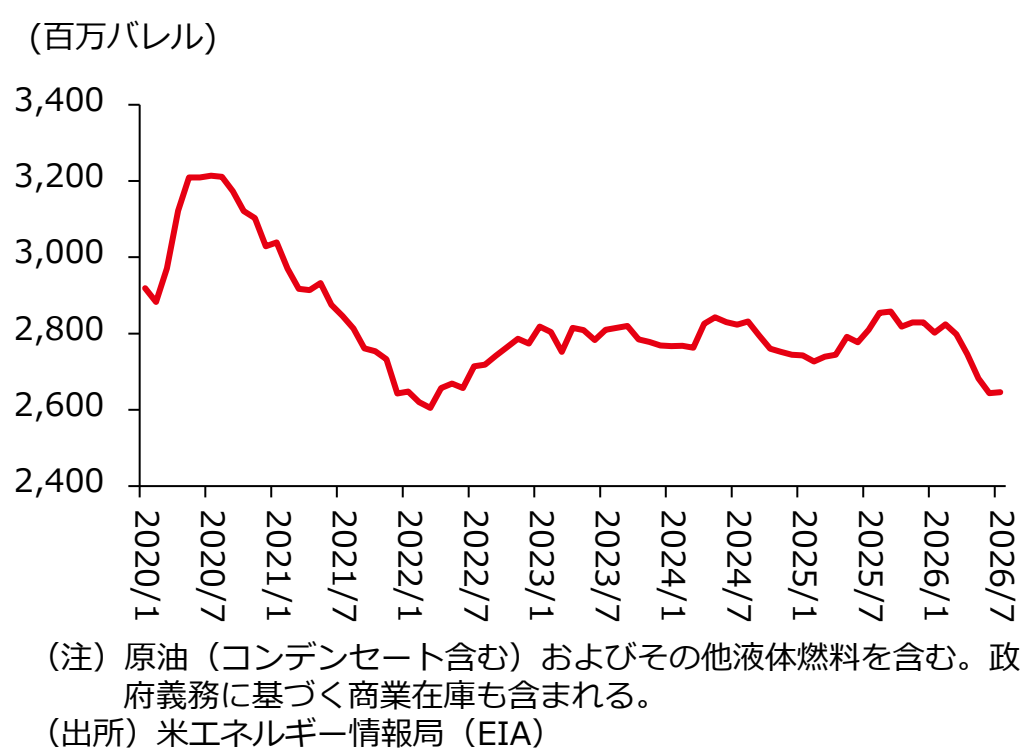
足元の動向：米・イランの覚書合意を受けてホルムズ海峡の通航量が回復し、7月の世界の原油生産量は日量101百万バレルと紛争前水準に接近した。在庫の継続的な取り崩しにも一服感が見られた。一方、7月下旬以降はホルムズ海峡の通航量減少やフーシ派による紅海封鎖リスクを背景に供給懸念が高まり、WTIは一時90ドル超まで上昇した。その後、ホルムズ海峡の管理をめぐるイラン・オマーン協議への期待で一時下落したものの、米国の強硬姿勢を受け再び上昇した。

先行き：ホルムズ海峡の輸送停滞を補完してきた迂回ルートにも不安定化の兆し。サウジアラビアの輸出を担う紅海側航路の不安定化に加え、紛争後輸出を大幅に増加させたオマーンの供給持続性にも不透明感が残る。米口など代替供給国の輸出余力も縮小しつつあり、今後は需給が一段とタイト化する可能性が高く、追加的な在庫放出を迫られる公算。一方、世界の余剰生産能力はホルムズ海峡内に集中しているため、情勢改善時の供給回復余地も大きく、価格は当面振れやすい見通し。

▽WTI（期近物）



▽OECD商業原油在庫



銅

上席主任研究員 宮森 映理子

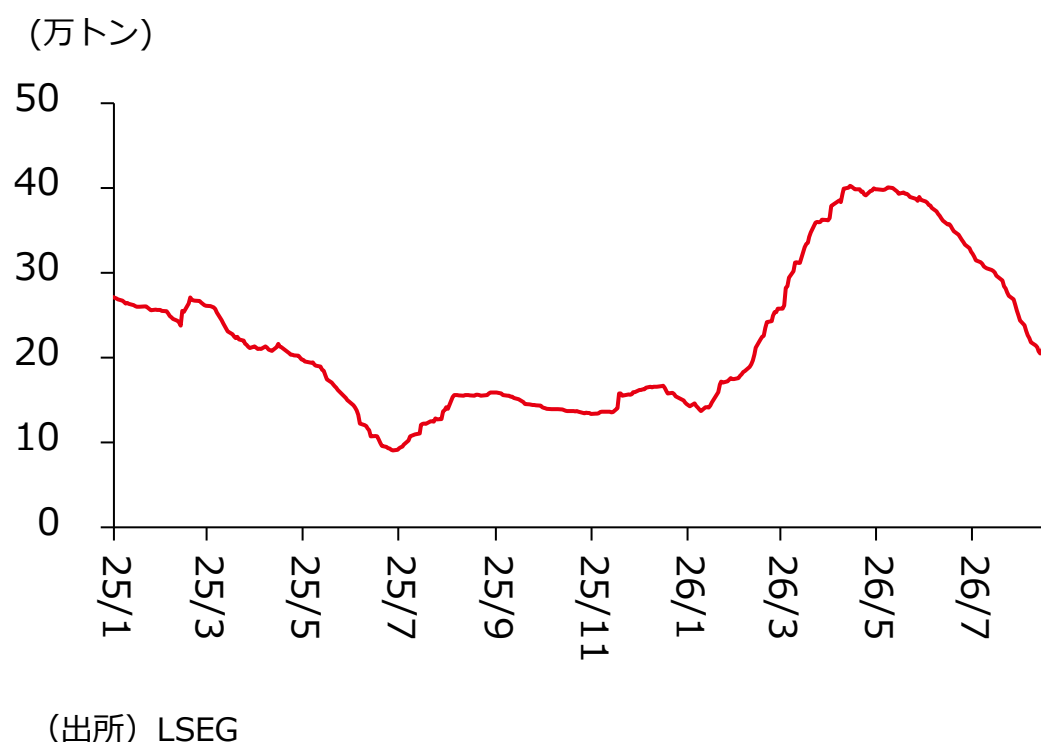
足元の動向：銅価格（LME）は、8月初旬に14,000ドルを超えたのち、横ばい。供給面では、チリ主要鉱山等での豪雨などによる供給不安が上昇要因。加えて、中国の製錬所の赤字操業による銅供給への下押し圧力、米国の銅関連関税への懸念を受けて在庫が米国に移ったことによるLMEの低水準の在庫も上げ材料。一方で需要面では、中国の7月の鉱工業生産や固定資産投資などの経済指標に加え、製造業景況感も悪化し、需要の減退が意識され相場の重しとなった。

先行き：当面は、高値圏で推移する見込み。供給面では、チリ政府による2026年の減産見通し、インドネシア製錬所での事故による出荷遅延観測、赤字操業の続く中国内製錬所からの供給減少観測を背景に需給のタイト感が意識される。コンゴ民主共和国での銅精鉱輸出規制も価格を下支える。データセンターや再生可能エネルギー、電化関連機器向け需要の増加基調は引き続き価格を押し上げる一方、中東情勢の先行き不透明感が価格の上下両方向への振れを増幅させよう。

▽銅（LME、3カ月物）



▽取引所在庫（LME）



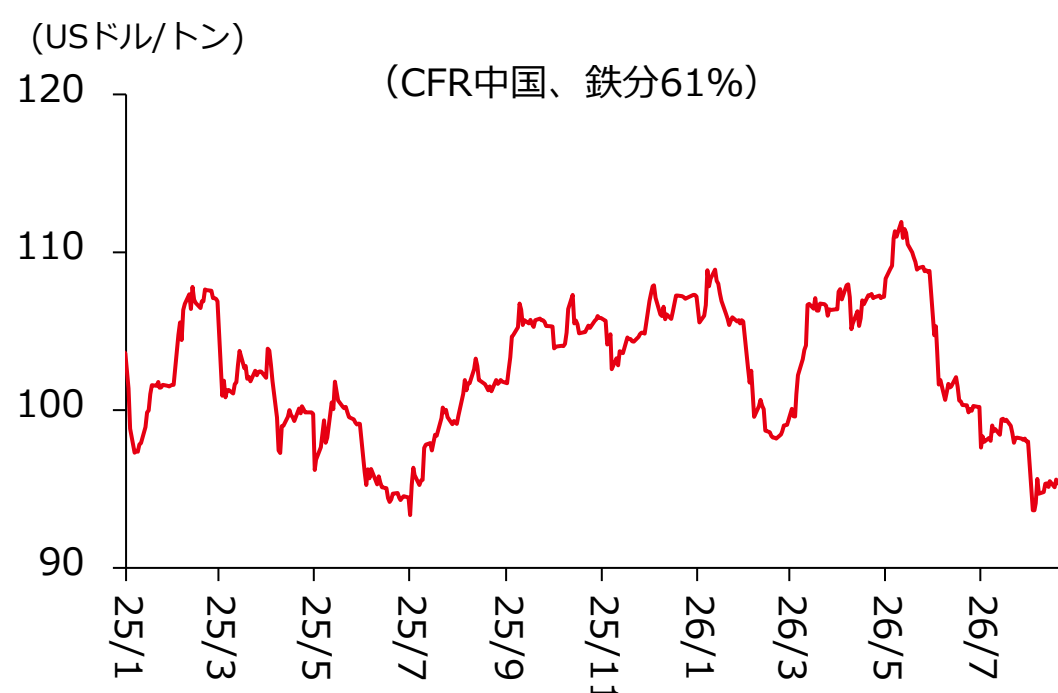
鉄鋼原料

上席主任研究員 桑名 奈美

鉄鉱石：価格は100ドル台から下落し90ドル台で推移。中国の鉄鋼生産量は内需の弱さから前年比4%減少し、鉄鉱石の港湾在庫も前年を約2割上回る高水準が続いた。豪州・ブラジルからの出荷もおおむね安定しており、需給の緩みが相場の重しとなった。8月に入り、豪州の労使交渉を巡る供給懸念が相場を下支えしたものの、最大の鉄鉱石需要国である中国の鉄鋼内需は低迷している。輸入国の反発の下、中国の鉄鉱石需要を支える鉄鋼輸出の減少が予想されるため、今後も頭の重い展開。

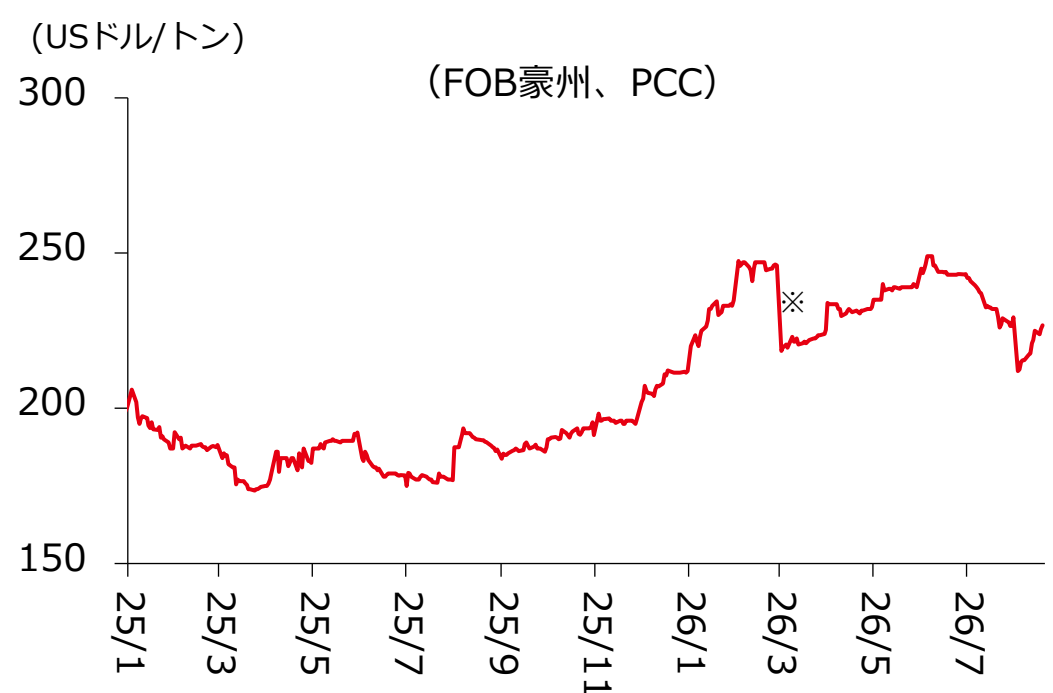
原料炭：価格は、豪州の豪雨からの供給回復やインドのモンスーン期入りに伴う需要減速を背景に、7月中旬の230ドル前後から8月上旬には215ドル前後まで下落した。その後は、中国山西省での8月上旬の豪雨を受け、5月の炭鉱事故後の復旧が想定より遅れるとの見方が広がったことから、8月中旬には225ドル前後まで持ち直した。今後は中国で炭鉱の操業再開が進み供給制約が徐々に緩和する一方、モンスーン終了後のインド需要の回復が見込まれることから、価格は一進一退となろう。

▽鉄鉱石（SGX、期近物）



(注) SGX：Singapore Exchange
(出所) LSEG

▽原料炭（SGX、期近物）



(注) SGX：Singapore Exchange
(出所) LSEG ※限月切替の影響を含む。

穀物

主任研究員 浦野 愛理

トウモロコシ：トウモロコシ価格（CBOT）は、4.6ドル台半ばまで上昇。米国中西部の高温乾燥予報による生育懸念、黒海の港湾停止に伴うウクライナの輸出減少、欧州の生産減少などが上昇要因。米農務省の8月月報では、2026/27年度の米国産輸出見通しの上方修正を受けて期末在庫見通しが下方修正されたものの、依然高水準な生産が価格の重しとなる見通し。今後は米国では秋の収穫動向に焦点が移り、南米では肥料価格の高騰が作付動向に影響するかに注目が集まる。

大豆：大豆価格（CBOT）は、12ドル付近で一進一退。米国産地の高温乾燥予報や中国による新穀買い付け観測が上昇要因に。米農務省の8月月報では、2026/27年度の米国産の生産見通しの上方修正を受けて期末在庫見通しも上方修正された。当面は中国が米国産の買い付けを継続する限り、価格は底堅く推移する見通し。今後は11月に米国の中間選挙を控える中、9月24日に予定されている米中首脳会談で中国による米国産農産物の購入をはじめどのような展開が示されるかが注目される。

▽トウモロコシ（CBOT、期近物）



(注) 1ブッシェル=25.4012kg
(出所) LSEG CBOT：シカゴ商品取引所

▽大豆（CBOT、期近物）



(注) 1ブッシェル=27.2155kg
(出所) LSEG

(執筆者プロフィール)

李 雪連 (Xuelian Li)

xuelian-li@marubeni.com

上席主任研究員

研究分野：中国・東アジア、商品・エネルギー、産業

IT企業勤務を経て2005年に丸紅入社後、丸紅経済研究所にて主に中国・東アジア、商品・エネルギー、産業を担当。講演や取材、寄稿なども行う。2013年から15年まで米国・戦略国際問題研究所（CSIS）に出向し米中関係を研究。早稲田大学アジア太平洋研究科修了（国際関係学修士）。（社）日本証券アナリスト協会検定会員、国際公認投資アナリスト、中国経済経営学会会員。

宮森 映理子 (Eriko Miyamori)

MIYAMORI-E@marubeni.com

上席主任研究員

研究分野：産業・技術、環境・エネルギー、商品市況、欧州

金融機関系シンクタンクに入社後、環境・エネルギー関連の調査・コンサルティング業務に従事。大手小売SPAを経て、2019年から丸紅経済研究所にて、サステナビリティ、一次産業、電力エネルギー等に関する調査分析と社内支援を担当。ライフサイクルアセスメント（LCA）分析をはじめとする定量分析を多数実施。2025年から26年に日本機械輸出組合ブラッセル事務所に出向。東京大学農学生命科学研究科修了（農学修士）。

栞名 奈美 (Nami Kuwana)

KUWANA-N@marubeni.com

上席主任研究員

研究分野：金属、化学、エネルギー、LCA、サプライチェーン分析、市況分析、産業政策分析

日系金融機関を経て、2017年から鉄鋼系シンクタンクにて鉄鋼業を中心に環境・エネルギー政策や技術動向調査・需給分析を担当。2023年から丸紅経済研究所。主に金属・化学・エネルギー産業のサプライチェーン分析や環境・エネルギー政策分析などを担当。LCA学会削減貢献量研究会委員、削減実績量研究会委員。東京大学法学部卒業。

浦野 愛理 (Airi Urano)

URANO-A@marubeni.com

主任研究員

研究分野：マクロ経済、米国、中南米、日本、穀物

2016年に丸紅入社後、丸紅経済研究所にて国内マクロ経済・金融政策などの経済調査、原油・銅市況や環境・エネルギー政策などの産業調査に従事。現在は米国や中南米などの政治経済、穀物市況を担当。2020年から22年に内閣府（経済財政分析担当）へ出向。一橋大学商学部商学科卒業。

株式会社丸紅経済研究所

〒100-8088 東京都千代田区大手町一丁目4番2号

<https://www.marubeni.com/jp/research/>

(免責事項)

- 本資料は公開情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性、相当性、完全性を保証するものではありません。
- 本資料に従って決断した行為に起因する利害得失はその行為者自身に帰属するもので、当社は何らの責任を負うものではありません。
- 本資料に掲載している内容は予告なしに変更することがあります。